

施策評価管理シート

2023(令和5)年6月作成

施策体系	政策	3	活力に満ちて暮らせるまち	担当部局(室)名	部局長名
	基本施策	1	地域産業の振興		
	施策	3	観光交流	産業部	山下 光彦

1. 施策の基本方針(目指す将来像)



○ 日々、変化・多様化する観光市場の動向に的確に対応し、市民の暮らしとの調和と暮らしの充実を前提とした「観光まちづくり」をテーマに“『訪れてよし』『住んでよし』『招いてよし』の観光都市名張”の実現に向けた取組を、地域、各種団体、事業者などのあらゆる主体との連携により進め、持続可能な観光振興と地域経済の活性化を図ります。

2. 令和4年度の実施内容及びその成果



- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた観光事業者を支援し、経済活動を再開させるため、市内の「みえ安心おもてなし施設認証制度」の認証を受けている宿泊施設、飲食店、観光施設の利用促進に取り組みました。※実施期間4/29～10/31、総事業費約494万円、利用者総数延べ879人、観光消費総額約1,258万円
- ・本市の主要観光地である赤目四十八滝の観光入込客数の増加を目指し、「竹灯コンテンツ造成事業」と「メディアテーションプログラム創出事業」に取り組みました。「竹灯コンテンツ造成事業」では、市民参加型の竹あかりづくり体験ワークショップを計5回開催し、延べ97名に参加いただきました。赤目渓谷『幽玄の竹あかり(10/22～1/29)』は、12月から金土日祝日の開催となり延べ来場者数は6,611人と減少しましたが、赤目四十八滝の冬の風物詩として定着してきました。「メディアテーションプログラム創出事業」では、伊賀忍者の修行の場であった赤目四十八滝を舞台に、伊賀忍者が行った修行の一つである瞑想(メディアテーション)の体験プログラムを造成しました。また、「赤目竹あかりSDG Sプロジェクト」では地域の皆さんが主体となり、竹を活用した地域ブランド商品の造成や加工食品の試作と赤目口駅から赤目四十八滝をつなぐ「竹あかりロード」が新たに作り出されました。
- ・東奈良名張ツーリズム・マーケティング(以下「ENN」)の取組では2025年開催予定の大阪・関西万博を見据え「SDG s」「自然」などをテーマにした広域周遊ツアーを企画し、国内外の旅行会社の現地視察(ファムトリップ)によるセールスを実施しました。また、国内最大の旅行博「ツーリズムEXPOジャパン2022」をはじめ、計3回の旅行商談会への出展を通じ、国内外の旅行会社等へのプロモーションとセールスに取り組みしました。
- ・ENN圏域の「観光総合プランナー」として、旅行業の経験と資格を持つ地域おこし協力隊に加えて、新たに「地域ビジネスサポーター」として地域ビジネスを確立していくためのサポート業務及び新たな体験観光プログラムの企画や提供を行う地域おこし協力隊を1名委嘱しました。
- ・老朽化により崩壊、倒壊する危険性が高い赤目四十八滝キャンプ場の旧バンガロー(4棟)の解体及び整備を行いました。

3. 施策指標(目標)の達成状況



施策指標(目標)の内容(単位)		基準値(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	達成率
名張市の物産や観光地、歴史や文化で、誇れるまたは紹介したいものがあると思う市民の割合(%)	目標	-	-	-	-	-	60.0	0.0%
	成果	53.0	52.9	54.8	57.0	54.4	51.0	
赤目四十八滝を訪れた外国人の数(人)	目標	-	-	-	-	-	10,000	0.0%
	成果	2,924	3,132	3,221	1,190	1,330	2,464	
名張市観光協会公式ホームページへのアクセス件数(件)	目標	-	-	-	-	-	313,000	72.3%
	成果	257,909	321,760	270,983	249,122	227,541	297,748	

4. 成果や施策指標の状況を踏まえた課題や現状の分析



- ・施策指標では、「名張市の物産や観光地、歴史や文化で、誇れるまたは紹介したいものがあると思う市民の割合」は2年続けて減少しましたが、令和4年10月に日本政府が新型コロナウイルスの水際対策を大幅緩和し、インバウンド個人旅行の受け入れを再開したことや全国を対象とした観光需要喚起策として「全国旅行支援」が実施されたことにより、「赤目四十八滝を訪れた外国人の数」「名張市観光協会公式ホームページへのアクセス件数」は増加しています。
- ・令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症へと移行になり、急激な観光需要が高まっている中、大きく変化する市場や観光客のニーズの多様化に対応していくため、観光マーケティングやDXへの対応を重点的に行う必要があります。
- ・赤目四十八滝の入込客数を増加させるため、閑散期のイベント開催やコンテンツづくりを行っていましたが、入込客数は年々減少し、令和4年度には10万人を切るという危機的状況にあるため、官民一体となり、赤目四十八滝エリアを観光地として再生し、観光誘客のための取組を進める必要があります。
- ・「竹灯コンテンツ造成事業」については、地方創生交付金を財源とした事業は令和4年度で終了しましたが、交付金終了後も「なばり竹あかりSDG sプロジェクト」を継続・深化させていくために、事業者と地域住民が一体となった体制づくりの支援が必要です。
- ・ENNに関しては、地域おこし協力隊や民間事業者との連携によりこれまでの取組を継続・発展させていく必要があります。
- ・三重県が実施している観光客実態調査によると、2019年に名張市を含む伊賀地域を訪れた観光客1人1回当たり旅行単価(宿泊・日帰り)は三重県・全国の全体平均を大きく下回っています。特に土産物に使う費用は、県内で最も低い数字となっているため、マーケティング調査を踏まえた新たな観光商品、食や土産物の企画・開発、販路開拓、プロモーションなどを一貫して戦略的に行う必要があります。

5. 分析結果を踏まえた新総合計推進に向けた施策の取組内容（令和5年度以降）



- ・新型コロナウイルス感染症により大きく変化した市場や観光客のニーズの多様化に対応していくために、観光客を対象にしたモバイルアンケートの調査を行うとともに、観光事業者が行うマーケティング業務の内、データ収集・分析に関する部分のデジタル化を進めます。
- ・赤目地域を観光地として再生させるため、アドバイザーの助言を受けながら、戦略的なプロモーションを行うほか、各事業者が行う宿泊施設・観光施設の高付加価値化改修など、地域が一体となって実施するおもてなし環境整備の支援を行います。
- ・「なばり竹あかりSDGsプロジェクト」を継続・深化させていくために、「地域ビジネスサポーター」である地域おこし協力隊を中心に、事業者と地域住民が一体となってプロジェクトに取り組む体制づくりと竹を活用した新たな特産品や体験プログラムの造成に取り組みます。
- ・ENNでは、「観光総合プランナー」として旅行業の経験と資格を持つ地域おこし協力隊を中心に、高付加価値化ツアーの企画・造成に取り組むとともに、ターゲットに対し効果的なプロモーション及びセールスを行います。
- ・市内での観光消費額を増加させるために、市内市場の実態調査、市内事業者の意向調査及び需要調査結果に基づく分析を行い、新たな商品開発（他地域と差別化できる土産物の企画・開発、農業・歴史・文化等を活用したコンテンツ造成など）を行います。
- ・NPO法人赤目四十八滝溪谷保勝会をはじめ、市内でエコツアーを実施する事業者との連携によるエコツアーの運営とプロモーション、新たな体験プログラムづくりやツアーガイドの育成を行う新たな「地域おこし協力隊」1人を導入し、名張市のエコツーリズムを発展させていきます。
- ・2025大阪・関西万博開催に向け、名張市産業活性化推進協議会（ナウダツ）を設立し、観光誘客と観光消費拡大に取り組みます。

施策を構成する主な事務事業

*R4決算額が事業費1,000千円以上の事務事業を掲載しています（施設等維持管理、内部管理事務の事業を除きます）。

単位：千円

会計	事務事業名	部局名	室名	令和4年度内容	R4決算額	うち一般財源
一般	内水面資源観光活用事業補助金	産業部	観光交流室	内水面資源を活用した観光誘客事業（稚鮎の放流、有害魚の駆除、河川の清掃管理、集客イベント開催）を実施する市内の三つの漁業協同組合に対し補助金を交付しました。 ・名張川漁業協同組合 2,280千円 ・長瀬太郎生川漁業協同組合 239千円 ・青蓮寺川香落漁業協同組合 67千円	2,585	2,585
一般	観光戦略推進事業	産業部	観光交流室	名張市観光協会をはじめ関係者との連携により、「名張市観光戦略」に掲げる各事業に取り組みました。 ・名張駅前観光案内所の運営 ・観光案内Webサイト等による観光情報の発信 ・観光誘客事業の実施（ボランティアガイドと歩こう、お菓子屋さんめぐりなど） ・広域観光の推進、地域ビジネスのサポート等の業務に携わり、地域・観光関連事業者との交流を図りながら定住・定着を目指す地域おこし協力隊を2人委嘱しました。	15,423	13,323
一般	竹灯りコンテンツ造成事業	産業部	観光交流室	持続可能な協働循環社会の構築による地域振興と観光誘客に取り組む「なばり竹あかりSDGsプロジェクト」において、ライトアップイベントの広域展開の支援及び継続支援のフォローアップを行いました。また、SNS及びWebを活用した日英2か国語によるプロモーションを行いました。 ・環境学習会を兼ねた竹あかりづくり体験ワークショップの開催（5回開催、97人参加） ・赤目溪谷「幽玄の竹あかり」の開催（延べ来場者数6,611人） ・SNS及びWeb広告（表示回数1,167,520回）によるプロモーション	5,000	2,500
一般	地域ビジネス創生プロジェクト事業	産業部	観光交流室	観光で賑わう赤目地域において、竹を生かした持続可能な地域ビジネスを創生し、観光による地域経済の発展により、地域の高齢者が活躍できる環境の創出に取り組みました。また、赤目地域住民が主体となり「あかめ竹あかりSDGsプロジェクト」を進展させる取組を行いました。 ・竹を活用した地域ブランド商品の造成（2件）及び加工食品の試作（2品） ・竹あかりづくり体験プログラムの提供体制の構築 ・整備後の竹林を活用したイベント等の開催 ・竹あかりロードの創設（12/3～1/29）	2,999	0
一般	メディテーションプログラム創出事業	産業部	観光交流室	伊賀忍者の修行の場であった赤目四十八滝を舞台に、伊賀忍者が行った修行の一つである瞑想（メディテーション）を活用した体験プログラムを造成しました。また、造成した体験プログラムをツアーに組み込み、民間による販売体制を構築しました。	6,999	0
一般	観光DX推進体制構築事業	産業部	観光交流室	観光関連事業者を対象にGoogleビジネスプロフィールの登録・運用支援を行いました。 ・Googleビジネスプロフィールの新規登録 17件 ・事業者支援員の育成 2人	4,500	1,501
一般	赤目四十八滝キャンプ場旧バンガロー解体事業	産業部	観光交流室	老朽化により崩壊、倒壊する危険性が高く、キャンプ場運営中の事故につながるおそれがあった赤目四十八滝キャンプ場にある旧バンガロー（4棟）について、解体及び整地を行いました。	13,005	1,605
一般	経済活動再開支援事業	産業部	観光交流室	新型コロナウイルス感染症の影響により停滞している経済活動を再開させることを目的として、市内の「みえ安心おもてなし施設認証制度」の認証を受けている宿泊施設、飲食店又は観光施設の利用に要した経費に対し、補助金の交付を行いました。 ・補助金交付対象者 18歳以上の市民 ・補助金交付実績 879人 ・当該事業による観光消費額 12,585千円	5,124	0

施策を構成する主な事務事業

*R4決算額が事業費1,000千円以上の事務事業を掲載しています（施設等維持管理、内部管理事務の事業を除きます）。

単位：千円

会計	事務事業名	部局名	室名	令和4年度内容	R4決算額	うち 一般財源
一般	名張の観光地づくり・高付加価値化事業	産業部	観光交流室	新型コロナウイルス感染症の拡大、物価高騰等により大きな影響を受けた市内の観光関連事業者が、新たなニーズへの対応やポストコロナの反転攻勢につなげるために高付加価値化を目的とした施設改修、設備導入又は備品購入を実施した事業者に対し、補助金の交付を行いました。 ・補助金交付対象者 「みえ安心おもてなし施設認証制度」の認証を受けている市内事業者 ・補助金交付実績 58件	10,888	0